

平成23年度実施協働事業 自己評価報告書

事業名：市民緑地「新倉ふれあいの森」の維持・管理

団体名：NPO法人和光・緑と湧き水の会

担当課：環境課

(■事業の評価 ★協働の評価)

■①【事業目的】事業目的が果たしているか

事業目的

- ・解決する地域課題の内容

残された緑を維持し、子供たちが身近に接することのできる環境を、いかに次世代に残すか。

- ・課題解決に対する市民ニーズ（課題として提起する根拠等）

市内に残る貴重な緑地をより長期にわたり維持し、その緑地を市民が身近な自然として活用できる状態に保つことは、市民の強いニーズである。

自己評価【○】

ヒアリングシート（事業の評価）より、ヤマブキソウやタマノタテアオイ等、貴重種の復活が見られる。イベント活動が最も多く、森の状態もきれいである。

■②【問題解決の手法】（事業の内容）問題解決の手法は適切であったか

問題解決の手法

- ・問題解決の方策

白子地区や主要な市内緑地の自然環境調査を行ってきた経験を生かし、市民が自然と触れ合うことのできる状態と生態系の維持の両立を図る。

自己評価【○】

評価シート（6事業は互いの特性や資源を活かしあいながら進められているか（進められたか））より、市民参加のきめ細かい保全と利用ができた。

■③【事業の実施体制】実施体制は適切であったか

事業の実施体制

- ・新倉ふれあいの森に近い会員14名及び森の保全活動の経験者が参加する。

自己評価【○】

毎月1回定例作業には、10名から12名参加し保全を行っている。

■④【年間スケジュール】スケジュールは適切であったか

年間スケジュール

4～6月 竹林整備、斜面林の手入れ、観察会実施

7～9月 草刈り、斜面林の手入れ、視察研修会

10～12月 斜面林の手入れ、川祭り・市民まつり参加

1～3月 竹林整備

自己評価【○】

活動状況報告から、スケジュールどおりであった。

■⑤【事業継続性】次年度以降も実施すべき事業か

自己評価【○】

評価シート（まとめ）より、「新倉ふれあいの森」は、平成 18 年度から協働により維持管理しているが、今後さらに地域に根ざした森づくりをすすめる必要がある。

★⑥【役割分担】団体と市の役割分担は適切であったか

役割分担

- ・提案団体 当地の自然の特徴を生かした保全と活用を進める。
- ・市 基本的なふれあいの森の維持管理、地権者との協定

自己評価【○】

事業実施前の事前協議の中で作成した役割分担書（契約書添付）に基づき、実施した。

★⑦【協働の必要性】協働により効果が増したか

協働の必要性

「変化する自然」に柔軟に対処するきめ細かな維持管理が必要であり、行政や民間営利企業が担いにくい緑地保全や自然と親しむ活動などは、市民のボランティア団体の有効な活動によって達成される。

協働による相乗効果

市の財政の節約、市民に密着した緑地のありよう、事業を通じた地域の新旧住民の交流の場の構築、地球環境問題やヒートアイランド現象などを身近な自然との触れ合いを通して認識する場、子供たちが自然と触れ合える場、ふれ合う方法を学ぶ場の充実。

自己評価【○】

評価シート（まとめ）より、行政としての緑地の管理・活用の体制と、市民（当会）の自然保護や観察会などの普及活動がマッチし、活動に対する諸方からの評価も高い。

★⑧【協働の成果】団体・市民・市それぞれに成果があったか

団体 当地の自然の特徴を生かした保全と活用をきめ細かく柔軟に実施。

行政 業者による委託管理に比べ、著しい経費削減、地域に密着した管理運営。

地域 地域の会員が常時活動することにより地域の自然環境に触れ合うことの出来る貴重な憩いの場となり、子供たちにとって掛替えのない緑となる。

自己評価【○】

評価シート（14 市民サービスは向上したか）より、森の整備により散策しやすくなり、サービスが向上した。

★⑨【他団体とのネットワーク（協力、共催等）】他の団体の協力や共催は必要なかったか

日本自然保護協会、NPO 法人自然観察指導員埼玉、彩の国みどりのサポーターズクラブとの情報交換等。

自己評価【○】

ヒアリングシート（広がり）より、保育園や児童館、他市の環境団体等とのつながりがみられた。